

# 「機能的」脳神経外科を ご存じですか？

Q 脳神経外科とはどんな科ですか？

脳に関わる疾患のうち、主に手術により治療が可能な疾患を対象とした診療科です。疾患としては多いのは脳卒中です。脳卒中には、脳への血管が詰まってしまい脳の細胞が死んでしまう「脳梗塞」、脳への血管が破れてしまい脳の中に出血してしまう「脳出血」、主に脳動脈瘤が破裂することで脳の外の膜の下に出血してしまう「くも膜下出血」があります。脳梗塞と脳出血は急に右もしくは左の手足が動かない、ろれつが回らない、言葉が話せないといった症状が起きやすく、くも膜下出血は突然の強

烈な頭痛により発症することが多いです。脳梗塞に対しては血栓を溶かす点滴やカテーテルを用いて血栓を取り除く手術が、脳出血に対しては血を取り除く手術が、くも膜下出血に対しては動脈瘤をクリップで挟んだりカテーテルで瘤の中に詰め物をする手術が行われます。

その他にも、頭のけがによる出血、頭の中にできた腫瘍、頭の中に水がたまる水頭症、子どもの頭や背中の中が奇形や、これらが原因で起こったてんかんなどが脳の物理的な異常が原因となった疾患や、脳の機能がおかしくなってきた疾患の患者さんに対して手術を行い治療しています。

Q 「機能的」脳神経外科とはなんですか？

主に脳の機能がおかしくなったことによる疾患に対して手術を行うことで治療をする領域の



Q 症状や病気に思い当たりますか？

専門的な病気が多く、脳神経内科や脳神経外科の専門医でなければ診断が難しいことも少なくありません。今までのお話しでお悩みのことがありましたら、一度お問い合わせください。

Q 他にはどんな治療がありますか？

神経が障害されたことによる痛みのうち、十分な痛み止めの薬で痛みが治まらない「難治性疼痛」の患者さんに対して、脊髄という背中の神経に外側から電気刺激を行い痛みの電気信号を遮断する「脊髄刺激療法」があります。整形外科で脊椎の手術を受けた後に手足や胴体に痛みが出るようになった患者さんや、手足の血のめぐりが悪くなって痛みが出るようになった患者さん、四肢の切断により痛みが出るようになった患者さん、帯状疱疹後の神経痛の患者さん、脳卒中の後に痛みが出るようになった患者さんなどが治療の対象になります。

Q 不随意運動の患者さんに対してどんな治療を行いますか？

脳の機能がおかしくなって異常な電気信号が出続けている部分を放射線や超音波でその部分だけ働かなくさせる「脳深部破壊術」と、異常な電気信号をお

ことをいいます。具体的には、脳の機能がおかしくなったことで体が思うように動かせなかったり、思っていないのに動いてしまったりする「不随意運動」の疾患の患者さんに対して手術を行います。手足が勝手にふるえてしまう「本態性振戦」、手足や首、胴体など筋肉が勝手に収縮したり収縮しすぎてしまう「ジストニア」、ふるえや筋肉のこわばり、動きが遅くなる、姿勢がきちんと保てなくなる、などの症状をきたす「パーキンソン病」などがあります。これらの病気は主に脳神経内科でまず薬による治療が行われ、薬だけでは十分に治療できない患者さんに対して脳神経外科で手術が行われます。

岐阜市民病院 脳神経外科  
野村悠一 先生

- 専門分野  
脳神経外科一般
- 役職  
医長
- 主な資格、認定  
脳神経外科専門医



今月の先生